

(教養セミナー)

## 教 養 セ ミ ナ ー I

P-01-23-S

### ◇履修方法

教養セミナーIは、I期に1テーマを選択し履修する。

#### I 授業の目的

教員および参加者相互でテーマをめぐって discussion しながら双方向的学習をすることにより、コミュニケーション能力、自主的学習態度を身につける。

#### II 到達目標

テーマごとに提示する。

#### III 教育内容

テーマ及び担当者：次頁の表のとおり

#### IV 学習及び教育方法

セミナー：自主的かつ双方向的に学ぶ。

#### V 評価の方法

出席を重視し、参加態度、理解度、発表内容、発表能力等を総合的に評価する。  
詳細は教員により異なる。

#### VI 推薦する参考書

テーマごとに提示する。

I期開講教養セミナー 一覧

テーマ	担当教員	開講予定時限
組織的不祥事事例の分析 医療倫理事例研究入門 英語文献講読 作文技術特訓I プレゼンテーション技術特訓 生命科学の基礎技術 ノーベル化学賞と医学への応用 理解するためのトレーニング	神谷 隆一 竹山 重光 廣田 麻子 石井 拓 武田 好史 森田 強 大町 遼 川谷 康太郎	月曜・4限目

配当学年：令和7年度入学生（1年次生）

### 組織的不祥事事例の分析（神谷 隆一）

企業をはじめとする組織における不祥事は後を絶たない。本セミナーでは、組織的不祥事事例をいくつか取り上げ、各々の事件の事実関係、発生原因、再発防止策、法的責任を検討し、組織的不祥事はなぜ起こるのか、再発防止策として何が有効なのかについて考察することを試みる。セミナーは演習形式で行い、レポート課題を課す。（評価の方法：授業での発表 58%、レポート課題 42%）。毎回、教科書の指定範囲及び配布資料を事前に十分読み込んで授業に参加することを求める。これらの学習により、組織的不祥事の原因分析・再発防止策について考察する力を身に着けることを目標とする。

テキストは、樋口晴彦『なぜ、企業は不祥事を繰り返すのか 有名事件 13 の原因メカニズムに迫る』（日刊工業新聞社）を用い、参考資料を適宜配布する。

オフィスアワー 火曜日 12:30～13:30

【連絡方法】 m-igaku★wakayama-med.ac.jp（三葛学生課まで）

【実施場所】 医学部三葛教育棟

【備考】 面談場所を用意しますので、事前に学生課に連絡願います

### 医療倫理事例研究入門（竹山 重光）

人間のからだという多様な連関を有するものを介して、道徳的倫理的な諸問題が湧出してくる場、その一つが、病気に携わる医学医療である（もう一つ重要なのは性であろう。この二つは重なり合いうる）。ビデオやDVDなど視聴覚教材を用いて、そのような場の具体的な事例を検討する。

参加者それぞれが、自分の疑問点・着眼点を意識し、それを適切に言語化して表明できること、そして、他の参加者によるそうした表明を傾聴し、それに応答できること、さらに、竹山を含め参加者全員で、結論を無闇に求めるのではなく議論を深めて様々の可能性を探り出し共有すること、これらを目標とする。筆記試験は行なわない。授業時の態度・発言・協力姿勢などいわゆる平常点を最も重視する（7割程度）。また、履修登録者数によって可変的だが、視聴覚教材に関する発表や竹山によって出された課題に対する応答の様子も評価する（3割程度）。

【特記】 履修登録者の数によって、グループを組んでもらったり単独で担当してもらったり、授業の具体的な進め方は可変的である。したがって、上記の目標や評価法などもある程度は可変的となる。初回の授業で進め方などを説明し指示を行なう。上級生の与太話を鵜呑みせぬように。

### 英語文献講読（廣田 麻子）

大学では、分野的にも分量的にも時代的にも、多様な英語文献を読むことが求められる。本セミナーでは、毎週集まって同じテキストを読み合わせ、意見を出し合い、討論する。最初はゆっくりと丁寧に読み始め、徐々にスピードを上げていきたい。テキストは、J.K.Rowling, *Harry Potter and the Philosopher's Stone* (Bloomsbury: London, 2014) ISBN 978 1 4088 5565 281 を用いる。ページ・行数指定の統一のため、受講生はこの同じテキストを持参してください。

到達目標：英語文献を読み、自分なりの意見を持ち、それを発表し討論できる。

評価の方法：授業での発表 100%

オフィスアワー 水曜日 16:00～17:00

【連絡方法】 hirotama★wakayama-med.ac.jp

### 作文技術特訓 I（石井 拓）

レポートや論文の執筆に取り組むことは、大学生にふさわしい知的能力を身につけるために必須の作業だと言えます。レポートや論文を書くには、テーマを定めて計画的に情報を集めて吟味し、それらを用いて主張を支持するための論証を組み立てた上で、筋道の通った文章で表現する必要があります。このセミナーではその具体的な方法を学びます。これらの各ステップに取り組み、作成した文章を何度も批判的に読んで改稿する作業に取り組んだ後では、そもそもこれまで自分は何かを深く考えることなどできていたのだろうか、と思うことでしょう。セミナーを受講する上で予備知識は特に必要ありませんが、ワードプロセッサを使える環境を準備しておけば文章の推敲がしやすくなります。評価は、授業中に課された課題への取り組み（100%）に基づいて行ないません。ただし、無断欠席がある場合は評価の対象となりません。テキストは、戸田山和久 著『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（2022年、NHKブックス）を用います。

オフィスアワー 月曜日 16:30~17:30

【連絡方法】 tishii★wakayama-med. ac. jp

【実施場所】 医学部三葛教育棟3階心理学教員室

#### プレゼンテーション技術特訓 (武田 好史)

このセミナーでは、人に何かを説明するための準備をする、あるいは他の人の講演を批判的に聞くという、おそらくこれまで未経験の作業を実際に体験することにより、プレゼンテーション技術およびコミュニケーション技術の向上を到達目標とする。

具体的には、受講者の中から順に毎回1,2名が講師役となり、他の受講者に向けて自らが定めたテーマの講演を個々に行う。その際、講師役以外の受講者には“講師”の説明のわかりにくいところや適切でないところなどを指摘していく。

評価の方法：セミナー内での発表発言（自身の発表および他の受講者の発表へのコメント等を含む）100%

オフィスアワー 月曜日 16:30~17:30

【連絡方法】 三葛学生課

【備考】 漠然とした質問には答えられないので事前に内容を整理しておくこと。

#### 生命科学の基礎技術 (森田 強)

近年における生命科学分野の進歩は目覚ましく、少し前には不可能だと思われていたようなことが次々と実現している。このような進歩は技術的な革新に支えられており、例えば90年代には国際グループで何年もの月日を費やして決定していたヒトゲノムの全塩基配列も、今や個人で数週間あれば読み取ることが可能となった。本セミナーでは、現在の生命科学技術の礎となっているPCRや蛍光タンパク質などの基礎技術を少人数のグループに分かれて学習する。また、グループ毎のプレゼンテーションを通じて学習内容を他のグループと共有することにより、より深く様々な知識を身に付けることを到達目標とする。なお、授業に取り組む姿勢(40%)およびプレゼンテーションの内容(60%)により成績評価を行う。

オフィスアワー 月～金曜日 9:00~17:00

【連絡方法】 tsuyo★wakayama-med. ac. jp (事前連絡不要)

【実施場所】 医学部三葛教育棟3階 生物学教員室

#### ノーベル化学賞と医学への応用 (大町 遼)

化学は身の回りに存在する物質の構造や反応の解明、有用な物質の合成を対象とする学問である。様々な学術分野との関連も強く、生体分子の構造と反応機構の解明や生理活性物質の合成など、医学分野においても重要な役割を担っている。本セミナーでは、近年のノーベル化学賞の受賞テーマをトピックとして取り上げ、グループワークと発表を通じてその研究の意義・内容を理解するとともに、医学研究・医療応用にどのように応用されているかを学ぶことを到達目標とする。

評価の方法：発表50%、質疑など授業への取り組み30%、課題20%

オフィスアワー 月曜 16:00~17:00

【連絡方法】 omachi★wakayama-med. ac. jp

#### 理解するためのトレーニング (川谷 康太郎)

一般的に、科学論文や教科書にあるような論理的に書かれた文章の内容を、正確に理解することは難しい。ところで、勉強と関連する二つのキーワードに「暗記」と「理解」があるが、これらの違いを明確に説明することもまた困難である。このセミナーでは、高校までの数学や日常生活で現れる文章を題材として、何かを「覚える」と「理解する」ことの違いについて考察していく。それより、論理的に書かれた文章の内容を理解するための基礎学力を習得する。

評価の方法：授業での発表50%、レポート課題50%

オフィスアワー 月曜 16:00~17:00



## 講義日程表(組織的不祥事事例の分析)

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.4.14	(月)	4	ガイダンス	法学教室	神谷
2	R7.4.21	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
3	R7.4.28	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
4	R7.5.12	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
5	R7.5.19	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
6	R7.5.26	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
7	R7.6.2	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
8	R7.6.9	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
9	R7.6.16	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
10	R7.6.23	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
11	R7.6.30	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
12	R7.7.7	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
13	R7.7.14	(月)	4	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
14	R7.7.23	(水)	4	授業のまとめ	法学教室	神谷

## 講義日程表(医療倫理事例研究入門)

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.4.14	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
2	R7.4.21	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
3	R7.4.28	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
4	R7.5.12	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
5	R7.5.19	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
6	R7.5.26	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
7	R7.6.2	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
8	R7.6.9	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
9	R7.6.16	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
10	R7.6.23	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
11	R7.6.30	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
12	R7.7.7	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
13	R7.7.14	(月)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山
14	R7.7.23	(水)	4	教材視聴とディスカッションなど	哲学・倫理学	竹山

## 講 義 日 程 表(英語文献購読)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R7.4.14	(月)	4	Introduction	英語	廣田
2	R7.4.21	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
3	R7.4.28	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
4	R7.5.12	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
5	R7.5.19	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
6	R7.5.26	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
7	R7.6.2	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
8	R7.6.9	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
9	R7.6.16	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
10	R7.6.23	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
11	R7.6.30	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
12	R7.7.7	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
13	R7.7.14	(月)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田
14	R7.7.23	(水)	4	Reading, Listening and Presentation	英語	廣田

## 講 義 日 程 表 (作文技術特訓 I)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R7.4.14	(月)	4	ガイダンス、執筆テーマ検討	心理学	石井
2	R7.4.21	(月)	4	執筆テーマに関する下調べ	心理学	石井
3	R7.4.28	(月)	4	アウトライン作成	心理学	石井
4	R7.5.12	(月)	4	初稿執筆	心理学	石井
5	R7.5.19	(月)	4	初稿執筆	心理学	石井
6	R7.5.26	(月)	4	初稿 概要発表と検討	心理学	石井
7	R7.6.2	(月)	4	改稿準備	心理学	石井
8	R7.6.9	(月)	4	改稿	心理学	石井
9	R7.6.16	(月)	4	改稿	心理学	石井
10	R7.6.23	(月)	4	改訂稿 概要発表と検討	心理学	石井
11	R7.6.30	(月)	4	最終稿 執筆準備	心理学	石井
12	R7.7.7	(月)	4	最終稿 執筆	心理学	石井
13	R7.7.14	(月)	4	最終稿 概要発表と検討	心理学	石井
14	R7.7.23	(水)	4	最終稿 概要発表と検討	心理学	石井



## 講 義 日 程 表 (プレゼンテーション技術特訓)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R7.4.14	(月)	4	ガイダンス	数学	武田
2	R7.4.21	(月)	4	講演テーマの決定	数学	武田
3	R7.4.28	(月)	4	講演テーマに関する調査研究	数学	武田
4	R7.5.12	(月)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田
5	R7.5.19	(月)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田
6	R7.5.26	(月)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田
7	R7.6.2	(月)	5	プレゼンテーション実技	数学	武田
8	R7.6.9	(月)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田
9	R7.6.16	(月)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田
10	R7.6.23	(月)	5	プレゼンテーション実技	数学	武田
11	R7.6.30	(月)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田
12	R7.7.7	(月)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田
13	R7.7.14	(月)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田
14	R7.7.23	(水)	4	プレゼンテーション実技	数学	武田

## 講 義 日 程 表 (生命科学の基礎技術)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R7.4.14	(月)	4	ガイダンス、グループ分け、学習テーマの検討	生物学	森田
2	R7.4.21	(月)	4	学習テーマの決定、内容の吟味	生物学	森田
3	R7.4.28	(月)	4	グループ単位でのワーキング1	生物学	森田
4	R7.5.12	(月)	4	グループ単位でのワーキング2	生物学	森田
5	R7.5.19	(月)	4	グループ単位でのワーキング3	生物学	森田
6	R7.5.26	(月)	4	グループ単位でのワーキング4	生物学	森田
7	R7.6.2	(月)	4	学習発表1	生物学	森田
8	R7.6.9	(月)	4	学習発表2	生物学	森田
9	R7.6.16	(月)	4	学習発表3	生物学	森田
10	R7.6.23	(月)	4	学習発表4	生物学	森田
11	R7.6.30	(月)	4	学習発表5	生物学	森田
12	R7.7.7	(月)	4	学習発表6	生物学	森田
13	R7.7.14	(月)	4	発表会の質問内容に対する解答	生物学	森田
14	R7.7.23	(水)	4	発表会の質問内容に対する解答(予備日)	生物学	森田

## 講義日程表(ノーベル化学賞と医学への応用)

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.4.14	(月)	4	ガイダンス・テーマ選択	化学	大町
2	R7.4.21	(月)	4	グループ単位でのワーキング	化学	大町
3	R7.4.28	(月)	4	グループ単位でのワーキング	化学	大町
4	R7.5.12	(月)	4	グループ単位でのワーキング	化学	大町
5	R7.5.19	(月)	4	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
6	R7.5.26	(月)	4	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
7	R7.6.2	(月)	4	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
8	R7.6.9	(月)	4	グループ単位でのワーキング	化学	大町
9	R7.6.16	(月)	4	グループ単位でのワーキング	化学	大町
10	R7.6.23	(月)	4	グループ単位でのワーキング	化学	大町
11	R7.6.30	(月)	4	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
12	R7.7.7	(月)	4	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
13	R7.7.14	(月)	4	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
14	R7.7.23	(水)	4	まとめ	化学	大町

## 講義日程表(理解するためのトレーニング)

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.4.14	(月)	4	オリエンテーション	数学・統計学	川谷
2	R7.4.21	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
3	R7.4.28	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
4	R7.5.12	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
5	R7.5.19	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
6	R7.5.26	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
7	R7.6.2	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
8	R7.6.9	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
9	R7.6.16	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
10	R7.6.23	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
11	R7.6.30	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
12	R7.7.7	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
13	R7.7.14	(月)	4	理解するためのトレーニング	数学・統計学	川谷
14	R7.7.23	(水)	4	まとめ	数学・統計学	川谷